

2018年11月27日

SUBARU 大泉工場に国内最大級の自家消費型の太陽光発電設備を導入

～2030年度へ向け、SUBARUグループが排出するCO₂の大幅削減を目指します～

SUBARUは、群馬製作所の大泉工場（群馬県邑楽郡大泉町）内の遊水池に、自家消費型としては国内最大級^{*1}となる太陽光発電設備の導入を新たに決定し、同設備を設置・運営する日本ファシリティ・ソリューション株式会社と基本合意を締結しました。

この設備は、同工場内で使用する電力用に5MWの発電出力（年間発電量：5,000MWh/年）を想定し、2019年度内の完成・稼働開始を計画しています。これにより、同工場のCO₂年間総排出量の約2%に相当する、約2,370t-CO₂/年^{*2}の削減を見込んでいます。

当社は、2017年に改訂した「SUBARU環境方針」の中で、「CO₂削減活動を全ての企業活動で取り組む」と謳っています。その方針に基づき、SUBARUグループが直接排出するCO₂^{*3}は、2030年度に2016年度比で30%の削減（総量ベース）を目標に取り組んでいます。今回の太陽光発電設備の導入は、2018年4月の「とちぎふるさと電気」の導入^{*4}に続く取り組みの一環と位置付けています。

SUBARUは、工場のグリーン化を一層推進して、地域における低炭素社会の実現や環境保全に貢献するとともに、「SUBARU環境方針」に掲げる「持続可能な社会の実現」に向け、全ての企業活動でCO₂排出量の削減を積極的に進めていきます。

SUBARU環境方針 <https://www.subaru.co.jp/outline/vision.html#EP>

*1: 日本ファシリティ・ソリューション株式会社調べ

*2: 東京電力エナジーパートナー株式会社の2016年度CO₂排出係数(0.474kg-CO₂/kWh)を使用して算出

*3: SUBARUグループの工場やオフィス等から直接排出されるCO₂を指します(スコープ1、2)

*4: 2018年5月10日発行のプレスリリース「地産消費型の電気メニュー「とちぎふるさと電気」を導入」をご覧ください
https://www.subaru.co.jp/press/news/2018_05_10_5769/



大泉工場 太陽光発電設備完成予想図